



ふるさと福井の自然

第13号

「貴重な植物群落」



■はじめに

福井県は、県内の自然環境の現況を把握するため、1993年からの5年間、地形・地質・動植物・景観を対象に調査を実施しました。植物分野では、貴重な植物群落を中心に、その分布や種構成、生育状況などについて調査しました。この中には、私たちの身近にある鎮守の森をはじめ、無人島や奥山の森林、草原、湿原など多様な植物群落が含まれています。それらは、いずれも長期間、伐採等の人为的な破壊を免れ、自然のままの状態で存続してきた群落です。

植物群落は、いくつもの種の集団であり、その組み合わせや構造は、群落を取り巻く環境や地理的背景をよく反映しています。特にこれから紹介する植物群落は、生育地の気温、水分、地形、風などの諸条件とうまく均衡を保つことで高い自然度を維持しています。そのため、都市の人工綠地のように画一的ではなく、それそれが個性的な姿をしています。

福井の自然を凝縮したともいえるこれらの植物群落は、私たちがふるさとの自然を理解する上で大切な存在といえるでしょう。

平成11年3月

福井県自然保護センター
所長 矢尾 正三郎

■目 次

貴重な植物群落一覧	3
砂丘の植物群落	5
・三里浜（福井市）	
・砂丘植物	
照葉樹林	7
・蒼島（小浜市）	
・雄島（三国町）	
・久米田神社（丸岡町）	
・御嶽山（福井市）	
・若狭姫神社（小浜市）	
・天満神社（高浜町）	
・杉森神社（高浜町）	
・秋葉山（敦賀市）	
・金ヶ崎城跡（敦賀市）	
ブナ林	11
・赤兎山（大野市）	
・刈込池（大野市）	
・経ヶ岳（大野市）	
・川合（和泉村）	
・平家平（大野市）	
・中ノ水谷（大野市）	
・大滝神社（今立町）	
・黒河川流域（敦賀市）	
・西方ヶ岳（敦賀市）	
亞高山帯の植物群落	15
・三ノ峰周辺（大野市）	
・能郷白山（大野市）	
・夜叉ヶ池周辺（今立町）	
・亞高山帯の植物	
湿原の植物群落	17
・赤兎山の高層湿原（大野市）	
・池内原湿原（敦賀市）	
・池ヶ原湿原（勝山市）	
・妻平湿原（大野市）	
・湿原の植物	





紅葉の刈込池

■福井の貴重な植物群落（主なもの）

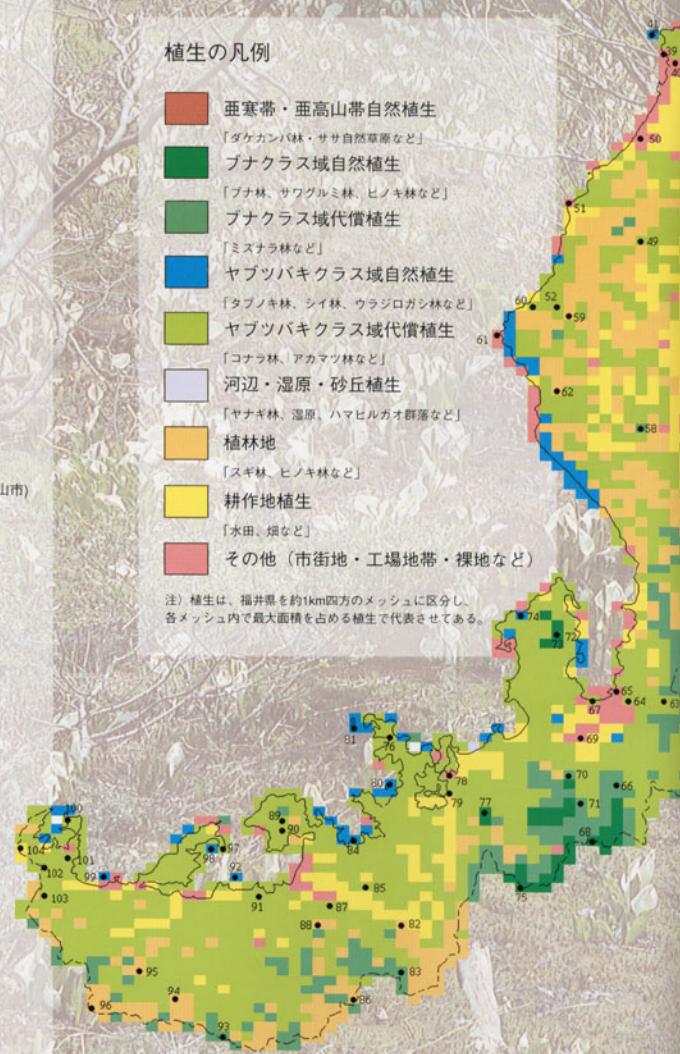
- 1 徳平山のシラカンバ林（和泉村）
- 2 仏崎付近の針葉樹林（和泉村）
- 3 平家岳の植生（和泉村）
- 4 和泉村集落のブナ林（和泉村）
- 5 三ノ峰周辺の植生（大野市）
- 6 刈込池周辺の植生（大野市）
- 7 赤兎山のブナ林（大野市）
- 8 赤兎山 赤兔平の植生（大野市）
- 9 下打波のトチノキ林（大野市）
- 10 中／水谷の植生（大野市）
- 11 箱ヶ岳の植生（大野市～勝山市）
- 12 荒島岳の植生（大野市）
- 13 六呂師高原の温原植生（大野市～勝山市）
- 14 神明山のアカマツ林（大野市）
- 15 勝原のケヤキ林（大野市）
- 16 モッカ平のブナ林（大野市）
- 17 鰐帽子川流域のキタゴヨウ林（大野市）
- 18 小沢のイヌブナ林（大野市）
- 19 平家平の植生（大野市）
- 20 能郷白山の植生（大野市）
- 21 銀杏峰の植生（大野市）
- 22 宝慶寺の植生（大野市）
- 23 大長山の植生（勝山市）
- 24 小原のリュウキンカ群落（勝山市）
- 25 取立山のミズバショウ群落（勝山市）
- 26 法恩寺山の植生（勝山市）
- 27 北谷のミチノクフクジュソウ群生地（勝山市）
- 28 茶葉神谷のアベマキ林（勝山市）
- 29 平泉寺の社叢林（勝山市）
- 30 越前甲の植生（勝山市）
- 31 長尾山のサクラバハシノキ群落（勝山市）
- 32 久米田神社のシラカシ林（丸岡町）
- 33 鶴ヶ岳のブナ林（金津町）
- 34 牛／谷 白山神社のスタジイ林（金津町）
- 35 沢 春日神社のスタジイ林（金津町）
- 36 高塚 春日神社のスタジイ林（金津町）
- 37 東荒井 春日神社のタブノキ林（坂井町）
- 38 大堤の水生植物群落（三国町）
- 39 東尋坊付近の海岸断崖植生（三国町）
- 40 滝谷寺のスタジイ林（三国町）
- 41 雄島の照葉樹林（三国町）
- 42 净法寺山周辺の植生（永平寺町）
- 43 大佛寺山のブナ林（永平寺町）
- 44 部子山の植生（池田町）
- 45 冠山の植生（池田町）
- 46 全草岳のブナ林（池田町）
- 47 大滝神社のブナ林（今立町）
- 48 金剣神社のスタジイ林（福井市）
- 49 大芝山のミズバショウ群落（福井市）
- 50 三里浜の砂丘植生（福井市）
- 51 岩嶽山のスタジイ林（福井市）
- 52 武周ヶ池のタチヤナギ林（福井市）
- 53 後又ヶ池周辺の植生（今庄町）
- 54 新羅神社のブナ林（今庄町）
- 55 藤倉山のブナ林（今庄町）
- 56 栃木峠のブナ林（今庄町）

貴重な植物

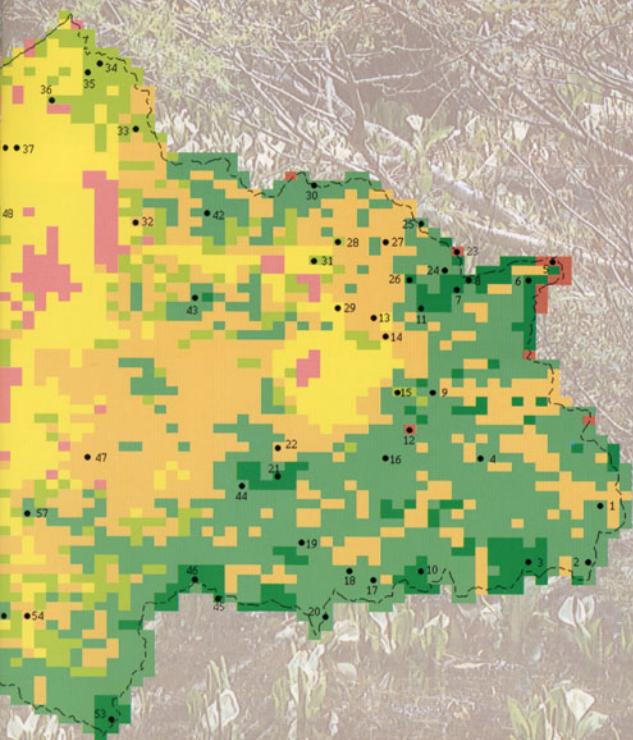
植生の凡例

- 亜寒帯・亜高山帯自然植生
「ダケカンパ林・ササ自然草原など」
- ブナクラス域自然植生
「ブナ林、サワグルミ林、ヒノキ林など」
- ブナクラス域代償植生
「ミスナラ林など」
- ヤブツバキクラス域自然植生
「タブノキ林、シイ林、ウラジロガシ林など」
- ヤブツバキクラス域代償植生
「コナラ林、アカマツ林など」
- 河辺・湿原・砂丘植生
「ヤナギ林、湿原、ハマヒルガオ群落など」
- 植林地
「スギ林、ヒノキ林など」
- 耕作地植生
「水田、畑など」
- その他（市街地・工場地帯・裸地など）

注：植生は、福井県を約1km四方のメッシュに区分し、各メッシュ内で最大面積を占める植生で代表させてある。



群落の位置

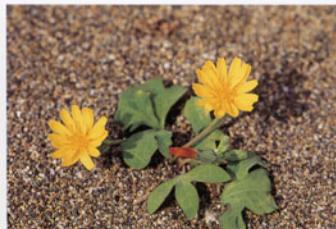


- 57 日野山のブナ林（武生市～南条町）
- 58 鬼ヶ岳の植生（武生市）
- 59 越知山のブナ林（朝日町）
- 60 ガラガラ山のヤブニッケイ林（越前町）
- 61 越前海岸のスイセン（越前海岸）
- 62 扇城山のブナ林（越前町）
- 63 池河内湿原の植生（敦賀市）
- 64 中池見の湿生植物群落（敦賀市）
- 65 金ヶ崎跡のスタジイ林（敦賀市）
- 66 岩籠山のブナ林（敦賀市）
- 67 気比の松原（敦賀市）
- 68 黒河川流域の植生（敦賀市）
- 69 秋葉山のスタジイ林（敦賀市）
- 70 野坂岳のブナ林（敦賀市）
- 71 黒河の湿原植生（敦賀市）
- 72 敦賀半島の植生（敦賀市～美浜町）
- 73 白城神社のスタジイ林（敦賀市）
- 74 門戸崎のクロマツ林（敦賀市）
- 75 大御影山のブナ林（美浜町）
- 76 常神半島の植生（美浜町～三方町）
- 77 霊谷山のブナ林（三方町）
- 78 宇波西神社のスタジイ林（三方町）
- 79 中山の湿生植物群落（三方町）
- 80 烏辺島の照葉樹林（三方町）
- 81 御神島の照葉樹林（三方町）
- 82 鹿野神社のツクバネガシ林（上中町）
- 83 駒ヶ岳のブナ林（上中町）
- 84 矢代崎のヤマモモ林（小浜市）
- 85 大戸 弥和神社のスタジイ林（小浜市）
- 86 百里ヶ岳のブナ林（小浜市）
- 87 若狭姫神社の照葉樹林（小浜市）
- 88 多田ヶ岳のアカマツ林（小浜市）
- 89 内外海半島の植生（小浜市）
- 90 久須夜神社のスタジイ林（小浜市）
- 91 黒駒神社のスタジイ林（小浜市）
- 92 苍島の照葉樹林（小浜市）
- 93 八ヶ峰のアカマツ林（名田庄村）
- 94 一ヶ谷国有林の暖地性植物（名田庄村）
- 95 大滝のコウヤマキ林（名田庄村）
- 96 頭巾山のホンシャクナゲ林（名田庄村）
- 97 大島半島の植生（大飯町）
- 98 冠者島の照葉樹林（大飯町）
- 99 鷹島の照葉樹林（高浜町）
- 100 内浦湾沿岸の照葉樹林（高浜町）
- 101 天満神社の社叢林（高浜町）
- 102 青葉山の植生（高浜町）
- 103 杉森神社のウラジロガシ林（高浜町）
- 104 鎌倉のケヤキ林（高浜町）

背景は取立山のミズバショウ群落



コウボウムギ (カヤツリグサ科)



ハマニガナ (キク科)



ネコノシタ (キク科)

■砂丘の植物群落

九頭竜川河口の南西に位置する三里浜には、海岸砂丘が発達しています。砂丘は絶えず風によって砂が動く上、飛砂や海水のしきなど海からの様々な影響を受けるため、植物にとっては過酷な環境です。そのため、砂丘にはこのような環境に適応した特有の植物（砂丘植物）が生育しています。それらは全体的に背丈が低いわりに花が大きく、一見すると高山のお花畠を連想させます。また、きびしい環境と戦うため葉が多く肉質であったり、毛や光沢があるなどの形態的特徴を備えています。

砂丘が植物に与える試験の中で最も大きなものは、根を下ろした場所の砂が風で動くことです。そして、それに対する抵抗力が種によって異なるため、群落の構成や分布は、砂の移動の大小に影響を受けています。砂の移動が一番激しい海側では、コウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマニガナなど、少し弱まるところではネコノシタ、カワラヨモギ、ハマボウフウ、ハマウツボなどが群落を形成します。そして、砂が安定するところでは低木のハマゴウの他にチガヤ、アレチマツヨイグサ、ハマハタザオ、カワラマツバなど比較的背の高い草本が生育し、後方のクロマツ林へと続いています。

三里浜では、一時はオフロードカーが砂丘を踏み荒らすため、撇に沿って群落が消失するなどの被害が見られましたが、最近、自動車乗り入れの防止柵が施されるなど保全対策が進められています。



ハマボウフウ (セリ科)



アナスマミレ (スミレ科)



ウンラン (ゴマノハグサ科)



ハマナス（バラ科）



コウボウシバ（カヤツリグサ科）



ハマハタザオ（アブラナ科）



ハマグルオ（ヒルガオ科）



ハマゴウ（クマツヅラ科）



ハマウツボ（ハマウツボ科）



ハマエンドウ（マメ科）

■照葉樹林

平野部の杜吉林や海岸近くでは、冬でも青々とした葉を繋らせている森林が目につきます。主にスダジイ、タブノキ、ヤブツバキ、カシ類などの常緑広葉樹で構成される森林で、光沢のある葉を持つ樹種が多いことから照葉樹林と呼ばれています。照葉樹林は、温暖で雨の多い亜熱帯から暖温帯を中心に分布し、県内では主に若狭湾沿岸部や嶺北地方の低地に見られます。

もともとは、西南日本のかなりの部分が照葉樹林で覆われていたと考えられていますが、人間の生活域と重なるため農耕地や居住地の拡大とともに減少の一途をたどってきました。自然環境保全基礎調査植生調査報告書(環境庁自然保護局 1994)によれば、照葉樹の自然林が国土に占める割合はわずか1.6%となっています。本県においても、人為の影響が少なかった頃は、標高200mほどまでの地域にうっそうとした照葉樹林が広がっていたと考えられます。しかし、同報告書によれば、現在このような森林は県全体の1%ほどを占めているにすぎません。



■蒼島

小浜市加斗の沖合約1kmの距離に浮かぶ面積約2haの島。スダジイやタブノキを中心とする照葉樹林が島全体を覆い、林内には、ここを分布の北限とするナタオレノキとムサシアブミが自生する。この島の森林は、1951年に「蒼島暖地性植物群落」として国の天然記念物に指定されている。



林内の様子

上層を覆う厚い葉のために最も薄暗い。ブナ林などの落葉樹林と比較すると構成種が少なく、林床の草本類もまばらであることが多い。



ナタオレノキ

モクセイ科の常緑高木で本州（福井県以西）、八丈島、四国、九州、小笠原、沖縄に分布。本県の蒼島と鷹島（高浜町）に隔離分布し、北限の自生地としている。



ムサシアブミ

サトイモ科の多年草で、本州（関東以西）～沖縄に分布する暖地性の草本植物。県内での自生は蒼島の他に高浜町の鷹島、上瀬で確認されている。ナタオレノキと同じここを北限の自生地とする。



■空から見た雄島（三国町安島）

北部（写真右側）ほど波や風の影響を強く受けるため、海から内陸に向かって岩場、草原、森林と変化する。森林の大部分をタブノキ林が占め、林床には暖地性のキノクニスゲが高い密度で生育する。



■御嶽山のスタジイ林（福井市鮎川町）



■雄島のヤブニッケイ林（三国町安島）

島の北部にあり、海からの風を直接受けるため、林を構成する木の多くは、胸高直径が20cmあまりしかない。ヤブニッケイがこのような純林を形成するのは珍しいといわれている。



■若狭姫神社の社叢林（小浜市遠敷）



■久米田神社のシラカシ林（丸岡町下久米田）

シラカシ林は内陸部に分布する代表的な照葉樹林だが、県内ではあまり見られない。この神社の拝殿西側に残る林は、小面積ながら樹高約18m、胸高直径30～50cmのシラカシが優占する。



■天満神社の社叢林（高浜町小黒飯）



海に迫る標高95mの山で、全体がスダジイ林に覆われる。頂上には社殿が祀られ、森は神域として保護されてきた。スダジイの他にモチノキ、タブノキ、ケヤキが混生して林を形成している。



■森森神社のウラジロガシ林（高浜町六路谷）



面積1haほどの斜面に広がり、胸高直径80cmを越す大木がそろ見事な林。下部はタブノキ、上部ではスダジイが優占し、本県では珍しいカゴノキも混じる。



■秋葉山のスダジイ林（敦賀市勘生野）



スダジイとタブノキが優占する林で、林下にはアリドオシが密生する。アリドオシは茎に鋭いトゲを持つ暖地性植物で、日本海側では美浜町を北限としている。



■金ヶ崎城跡のスダジイ林（敦賀市天筒山）

ウラジロガシ林は、シラカシ林と同様、内陸部に分布する照葉樹林だが、県内では数少ない。この林は、その中では最大面積のもの。境内に生育するオハツキイチョウは国の天然記念物に指定されている。

標高30mほどの小さな山で、周りを住宅地に囲まれている。ほぼ全域がスダジイ林に覆われ、特に北側斜面では胸高直径60~90cmの巨木が立ち並ぶ。林内に大きなサカキが多いのが特徴的である。

一帯が国史跡であることから、森林植生がよく保存されている。城跡から天筒山にいたる尾根沿いには、胸高直径50~60cmのスダジイが見られる。その面積は、県内のスダジイ林の中では最大級である。

■ブナ林

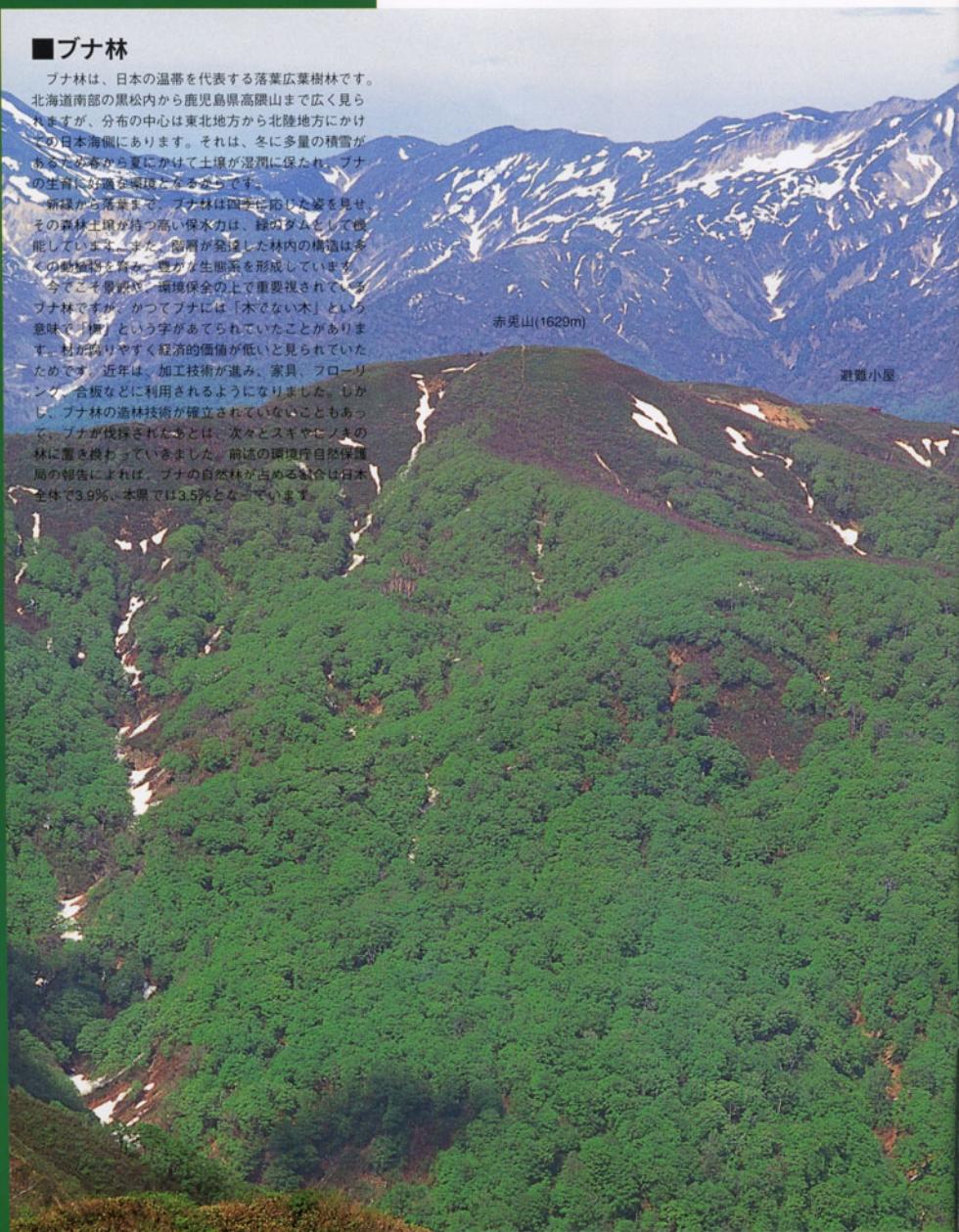
ブナ林は、日本の温帯を代表する落葉広葉樹林です。北海道南部の黒松内から鹿児島県高隈山まで広く見られます。分布の中心は東北地方から北陸地方にかけての日本海側にあります。それは、冬に多量の積雪があるため冬から夏にかけて土壤が湿润に保たれ、ブナの生育に適した環境にあるからです。

新緑から落葉まで、ブナ林は四季七面した姿を見せ、その森林土壤が持つ高い保水力は、多くのダムとして機能しています。また、樹齢が発達した林内の構造は多くの動植物を育み、豊かな生態系を形成しています。

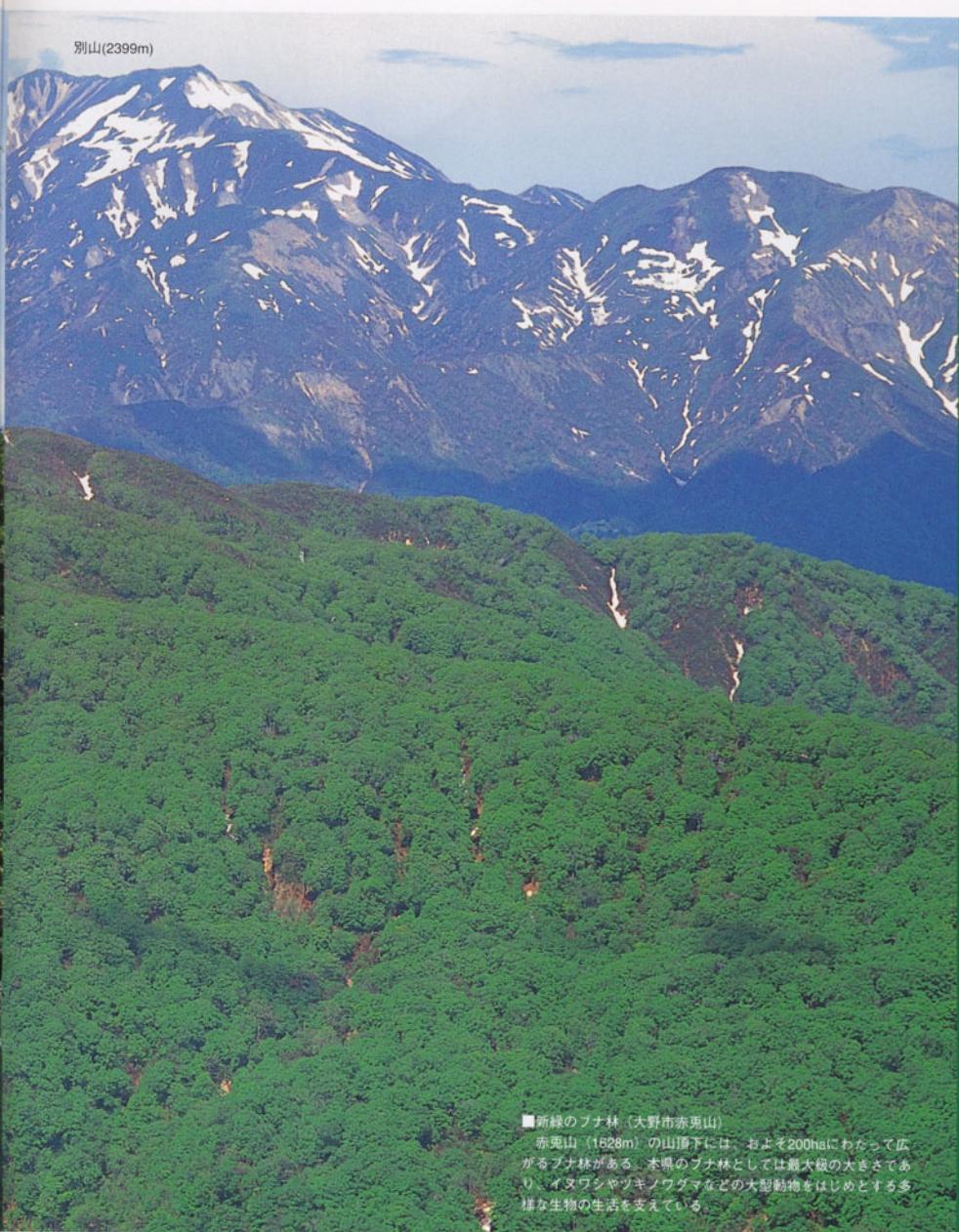
今こそ資源や、環境保全の上で重要視されているブナ林ですが、かつてブナには「木でない木」という意味で「非木」という字があてられていたことがあります。材が割りやすく経済的価値が低いと見られていたためです。近年は、加工技術が進み、家具、フローリング、合板などに利用されるようになりました。しかし、ブナ林の造林技術が確立されていくこともあって、ブナが伐採されたあととは、次々とスギやヒノキの林に置き換わっていました。前述の環境省自然保護局の報告によれば、ブナの自然林が占める割合は日本全体で3.9%、本県では3.5%となっています。

赤兎山(1629m)

避難小屋



別山(2399m)



■新緑のフナ林（大野市赤兎山）

赤兎山（1628m）の山頂下には、およそ200haにわたって広がるフナ林がある。本県のフナ林としては最大級の大きさであり、イヌワシやツキノワグマなどの大型動物をはじめとする多様な生物の生活を支えている。



■空から見た刈込池（大野市）

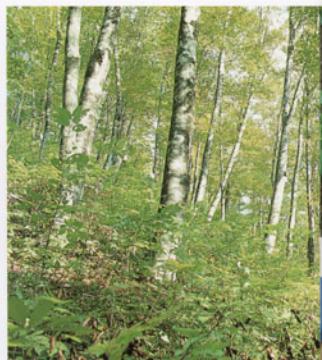


■刈込池のブナ林（大野市）



■経ヶ岳のブナ林（大野市）

願教寺山（右上）の麓に広がる平坦な地形上にブナ林が広がっている。一帯は白山国立公園に指定され、また、1979年には福井県が買いあげて保護に努めている。上小池駐車場から刈込池にかけて自然研究路が整備されている。



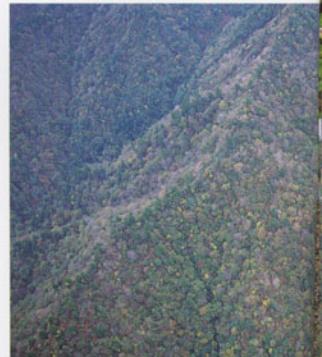
■川合のブナ林（和泉村川合）

刈込池は、打波川源流域にある周囲約410m、深さ約5mの池である。周辺は幅ヶ平と呼ばれる台地で、その全面にブナ林が発達する。池の水位は夏季にもあまり変動がなく、ブナ林の保水力の高さを物語っている。



■平家平のブナ林（大野市）

経ヶ岳（1625m）は、県境を除く山岳の中では最も高い。ブナ林は、標高900～1400mに分布し、中でも池の大沢付近でよく発達している。この一帯は白山国立公園に指定され、多くの野生動物の生息地ともなっている。



■中ノ水谷のブナ林（大野市）

和泉村の各集落の後背地には、住民によって保護されてきたブナ林が残る。林下にシロモジ、マルバノキ、マンサク、ハスノハイチゴなど主に太平洋側に分布する種が出現するのが特徴である。



■大滝神社のブナ林（今立町大滝）

自然林に近い林や林床がオウレン烟として管理されている林など様々な林相のブナ林が見られる。また、県内屈指の大きさを誇るトチノキ（幹周約7.2m）やミズバショウ群生地がある。大野市は、一帯の森林を購入して保護に努めている。



■黒河川流域のブナ林（敦賀市）

屏風山（1354m）を源流とする渓谷で、急峻な地形のいたるところに大小の滝や絶壁がある。一帯に広がるブナ林は、林内にホンシャクナゲが多く見られるのが特徴。尾根や急崖にはヒノキやキタゴヨウが生える。



■西方ヶ岳のブナ林（敦賀市～美浜町）

標高300mの奥の院付近に、約1haのブナ林が残されている。300本あまりのブナからなり、胸高直径1mを越す大木も多い。この林は本県のブナ林の中では下限近くに位置している。

黒河川は、敦賀市南部の乗鞍岳と三国山付近を源としている。ブナは標高150mあたりから現れ、500m以上で林を形成している。ここでは、ブナとスギが混生する本県では珍しい群落も見られる。

敦賀半島の脊梁を南北に伸びる山塊が西方ヶ岳（764.1m）である。ブナ林は、標高550m付近から出現する。大きなものでも胸高直径30cmほどの若い林だが、林内にベニドウダンが見られるなど、他のブナ林にない特色を持っている。

■亜高山帯の植物群落

中部地方の山岳地帯では、標高1500mを越えるあたりからブナやミズナラの林が姿を消し、代わってオオシラビソなどの針葉樹やダケカンバが優占する林が現れます。このような森林が成立するところを亜高山帯と呼びます。積雪の多い日本海側の亜高山帯では、針葉樹林はあまり発達せず、主にダケカンバ林や低木林、草原などが広がっています。

県内では、三ノ峰（2128m）周辺で典型的な亜高山帯の植生が見られます。上小池からの登山道沿いでは、六本槍付近から山頂にかけて自然植生がよく残り、ブナ林からダケカンバ林、風衝低木林、高茎草原へと垂直的に植生が変化していきます。また、山頂部には高山帯の植生であるハイマツ群落や雪田草原も小規模ながら見られます。

この他、能郷白山（1617m）、赤兎山（1628m）、冠山（1257m）、夜叉ヶ池（1099m）などの山頂付近にも亜高山性の植生が見られます。一般に高山植物と呼ばれている植物の中には、県内のこれらの地域を分布の西限や南限としているもののが70種以上も確認されています。



■三ノ峰周辺（大野市）

県内では三ノ峰周辺にだけ分布が知られている植物が多く、ハイマツ、イワギク、ハナイカリ、キバナコマツメ、グンナイフウロ、タカネバラ、クルマユリ、ミヤマダイコンソウなどがある。



タカネバラ（バラ科）



ハクサンオミナエシ（オミナエシ科）



ハクサンゴザクラ（サクラソウ科）



グンナイフウロ（フウロソウ科）



クロユリ（ユリ科）



ツマトリソウ（サクラソウ科）



■能郷白山（大野市）

能郷白山（1617m）は岐阜県と福井県の県境に位置する越美山地の最高峰。山頂付近の稜線や南側斜面に風衝低木林や高莖草原が広がり、夏にはニッコウキスゲ、シモツケソウ、イブキトラノオ、コバイケイソウなどが一面に咲く。



■夜叉ヶ池（今庄町）

池の南側の稜線から三国岳頂上部にかけて、タテヤマリンドウ、トウキ、コバイケイソウ、ヤハズハンノキ、キタゴヨウ、モミジカラマツ、イブキゼリ等、ここを分布の西限や南限とする亜高山性の植物が豊富に見られる。



イブキトラノオ（タデ科）



ミヤマダイコンソウ（バラ科）



ハクサンチドリ（ラン科）



イワカガミ（イワウメ科）



シナノキンバイ（キンポウゲ科）



ユキワリソウ（サクラソウ科）



■赤兎山の湿原（大野市）

這難小屋近くの通称「赤池」と呼ばれる池塘周辺に小規模な高層湿原が見られる。ミズコケ類の他、ミヤマホタルイ、ミカヅキグサ、イワショウブ、キンコウガ、イワイチョウ、モウセンゴケ、ニッコウキスケなどが生育している。

■湿原の植物群落

絶えず過湿な状態にある湿原では、陸生の植物は生育できず、代わって湿生植物と呼ばれる特殊な植物たちが群落を形成しています。それらの中には、遺存的な種や隔離分布する種が含まれることが多く、学術上貴重な植生といえます。しかし、近年、湿原を含む水辺の環境は、埋め立てや水質悪化が進む結果、危機的な状況となっています。植物群落レッドデータブック（日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会 1996）でも、緊急に保護対策が必要とされる植物群落のトップに湿原植生があげられています。

ここで紹介した本県の代表的な湿原もその例外ではなく、人の立ち入りや周辺環境の変化に伴い、面積が狭められたり、かつて生育していた植物が見られなくななるなどの問題をかかえています。



■池内湿原（敦賀市）

県内最大の湿原で、今や希少種となっている植物が多く生育する。中でもヤナギトラノオ、ミズドクサは、本県ではここだけに見られ、日本の分布南限となっている。福井県は1965年にこの湿原を自然環境保全地域に指定し、保全に努めている。

■池ヶ原湿原（勝山市）

奥越高原牧場内にある面積約1.5haの湿原。ミズチドリ、カキラン、トキソウ、ミカヅキグサ、ミズギク、カキツバタ、モウセンゴケなどの湿生植物が生育している。最近、ヨシが繁茂しすぎて植物全体のバランスをこわしている。



■妻平湿原（大野市）

自然保護センターの近くにある小さな湿原で本県有数のミツガシワ群生地として知られる。かつてはミミカキグサの仲間やサワランなどの希少植物が自生していた記録もあるが、最近では確認されていない。





トキソウ (ラン科)



カキラン (ラン科)



イワイチヨウ (ミツガシワ科)



ミズトンボ (ラン科)



ミズオトギリ (オトギリソウ科)



ヌマトラノオ (サクラソウ科)



メタカラコウ (キク科)



コオニユリ (ユリ科)



ミズギク (キク科)



リュウキンカ (キンポウゲ科)



ヒメシロネ (シロネ科)



コバギボウシ (ユリ科)

あとがき

本県における、1993年から1997年までの植物群落調査は、小学校から大学までの先生方（退職者も含む）に自然保護センターの職員を加えた計16名によって実施されました。これらの調査員は公私ともに多忙にもかかわらず、植物を愛する気持ちから快く協力して下さいました。調査は夏休みに集中することが多く、暑い最中、通常の装備に加え、調査用具、カメラ、三脚等を背負っての山行は決して楽な作業ではありませんでした。更に、山岳地での調査では、暗いうちから登りはじめたり、登山道からははずれて藪こぎを強いられることもしばしばでした。そのような労苦があつて初めて、この冊子も完成させることができました。これらの方々に心より感謝する次第です。

しかし、これで県内の貴重な植物群落の全てが網羅されたわけではありません。登山道のない奥山や急峻な場所は、未だに調査されていないからです。更に調査が進むことによって、その全貌が明らかになることを期待したいと思います。

●編集・撮影協力 (五十音順・敬称略)

- 石本 昭司 元 大野高校教諭
- 大久保嘉雄 金津高校教諭
- 大野みや子 鰐江東小学校教諭
- 北川 博正 荒土小学校校長
- 河野 和博 藤島高校教諭
- 小林 則夫 元 南部中学校校長
- 沢崎 孝志 丹生高校教諭
- 多田 雅充 自然保護センター企画主査
- 和浩 嶺南西養護学校教諭
- 福永 吉幸 若狭高校教諭
- 藤田 早苗 元 遠敷小学校教諭
- 松村 敬二 勝山城博物館館長
- 前川 忠志 小学校教諭
- 三谷 和範 丸岡高校教諭
- 横山 俊一 福井大学助教授

- | | |
|---|-----------------|
| A | 赤夷山の高原湿原 |
| B | 三里浜のコウボウムギ群落 |
| C | 北谷のミクニクワジュソウ群生地 |
| D | 仙峰付近に生えるミンシヤクナガ |
| E | 妻平湿原のミツガシワ群落 |
| F | 三ノ峰周辺のミヤマキスミレ群落 |
| G | 池河内湿原のハンジキ林 |
| H | 刈込池周辺のサワグルミ林 |
| I | 徳平山のシラカシノ林 |
| J | 三ノ峰周辺のタケカンバ林 |
| K | 鯉櫛岩川流域のキタゴヨウ林 |
| L | 鬼ヶ岳のミズナラ林 |

A	
B	C
D	E
F	G
H	I
J	K
L	



ふるさと福井の自然（第13号）

平成11年3月発行

編集・発行 福井県自然保護センター
〒912-0131 大野市南六呂師169-11-2
TEL 0799-67-1655・1656

印 刷 朝日印刷株式会社

この冊子は福井県自然保護基金によって
作成されました。

